

審判研修 道外派遣参加報告書

大会名	第40回全日本クラブバスケットボール選手権大会	期間	2014年 3月 20日(木) ~ 3月 23日(日)
開催地	愛知県 小牧市、一宮市	会場	パークアリーナ小牧、一宮市総合体育館
参加者	原 めぐみ	所属地区名	南空知地区
審判研修会 I (3月20日木曜日 14:30~) ・講師:富田 陽子氏 ・内容:座学講習 【講義 I (講話)】テーマ:A級1年目の活動を通して、感じたこと。公認の時とA級になった時での違いなど 講話者:①川辺 真由美氏(富山県)、②山田 豊弘氏(香川県)次年度よりAA級 【講義 II (ディスカッション)】テーマ:四原則の大切さ!			
実践実技1			
2014年 3月 21日 (金)	対戦カード(女子1回戦)	マインドパス(開催県)ー大分クラブ(大分県)	
副審	原 めぐみ	相手審判	川路 宗勅氏(関東・神奈川県 A級)
ゲーム前のカンファレンス内容 ・ どのようなチームなのか情報が少ないので、様子を見ながらも自分の判定を示して行きましょう。 ・ 視野分担とエリアの確認(エリア3~エリア4引き継ぎ等)			
ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 主任:久保 裕紀氏(本部・東京都) ・ ゲームの終わり方…4ピリに入り、負けているチームが仕掛けてきたが、それに対応できずにコールすべきものがコールされなかった。1~3ピリまでは良い雰囲気ゲームが進められていたので、残念だった。 ・ 笛を鳴らすタイミングにこだわりを持ってほしい。特にアウト・オブ・バウンズはジャストで鳴らす。 ・ 瞬間的に表現するときの工夫(ex.オフェンス・チャージングを判定した瞬間の表現)			
ゲーム感想 全国大会初戦ということもあり、少し緊張のある中ゲームが始められた。3ピリまで良いペースで進められていたが、4ピリあたりからDefの当たりもきつくなり、点数も競ってきた。自分が気づいた時にはもう後手となり、勝敗がついてしまっていた。 自分が判定したものについて、ベンチから別のアピールが2つほどあった。自分は何も違和感なく笛を鳴らしていたが、外から見ると笛を鳴らすタイミングが遅いとの指摘を受けた。正しい判定をしていてもタイミングが悪いと誤解を招くこともある。今後は笛を鳴らすタイミングにこだわり、瞬時に鳴らすケースとそうでないケースを使い分けられるようになりたい。			
実践実技2			
2014年 3月 22日 (日)	対戦カード(女子3回戦)	REBELLIONS(熊本県)ーAOBA(神奈川県)	
副審	原 めぐみ	相手審判	角平 和優氏(東海・岐阜県 A級)
ゲーム前のカンファレンス内容 ・ ゲーム中、見えないところが出てくると思うので、そこは遠慮せずお互いに協力していきましょう。 ・ 元気がありそうなチームなので、ゲーム序盤から仕掛けてきた場合に対応出来るよう準備して臨みましょう。 ・ プレイの見かたやポジションの修正についてはゲーム中にすり合わせていきましょう。			

ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 主任:富田 陽子氏(本部・愛媛県)

- ・ やんちゃで見応えのあるゲームで審判として集中力の欠かせない状態の中、ゲームを終えられたことは良かった。しかし、ゲームをコントロールする為に笛を吹いて収めていたことが多かったように感じる。
- ・ リードでの判定で、動きがプレイに合ってきたなという感じがするが、最終的に判定に繋がらない。あともう一歩何が足りないのか自分で探しましょう。自分が対応すべきところで対応出来なかったことに対して、もう少し踏ん張ってほしい。
- ・ 相手に協力してもらわなければ見えないアウト・オブ・バウンズについて、相手に対応していることを事前に把握しておくことで、よりスムーズに進めるように。

ゲーム感想

若くて勢いのあるAOBAが勝つのかと思いきや、蓋をあけてみれば、がっちり落ち着いたREBELLIONSが着々と点数を積み重ねていく形のゲームとなった。途中、危ないプレイも出そうな雰囲気にもなったが、大事には至らずに終える事が出来た。

講師からのアドバイスでも言われたが、リードでブラインドになってしまい見えない・判定出来ないケースが自分でも感じた。そのほとんどが右へ動いた時の位置が悪く、あと一歩・二歩外側へ動けたらまた違ったのかもしれない。しかし、そのあと一歩・二歩外側へ行けるだけのタイミングを自分なりに判らないとそこまで行けない。もう少し掘り下げて勉強したいと思う。

実践実技3

2014年 3月 23日 (日) 対戦カード(女子準決勝) ストレッチ(長崎県)－QUEEN BEE(千葉県)

副審 原 めぐみ 相手審判 山内 俊幸氏(愛知県AA級)・紀ノ岡 哲士氏(大阪府A級)

ゲーム前のカンファレンス内容

- ・ メカニックについては色々あるかもしれないが、自分の見たいものには足を運んで確認する。
- ・ あまり3パーソンということに捉われ過ぎずに、素直に判定していきましょう。

ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 主任:富田 陽子氏(本部・愛媛県)

- ・ センターの位置取りで高い時がある。2トレイルになってしまわないように意識してほしい。
- ・ 動く時は思い切って動く(特にリード)…2人の審判員への意思表示にもなる。
- ・ 判定については思い切って判定していた。
- ・ この経験を糧に自信を持って取り組んでほしい。

ゲーム感想

過去に日本代表やWJBLで活躍していた選手が多く、それぞれのエリアで色々なことが仕掛けられ、点数に繋がっていった。動作が速く、かつ身体の当たりも強いため、ファウルを判定することにより慎重になってしまった。3人で見ているということもあり、一つのプレイをいつもよりも長くおさえられて判定できたと思う。

ひとつのプレイがとても速く、身体の幅があるため、スペースの取り方をより速く、そしてそのスペースをよりしっかり捉えられる位置にいないければ判定に繋がらないことを実感した。

お二人のリードに上手に乗せられ、自分の出られるところは思い切り吹かせていただきながらも、最後まで集中して取り組むことができた。選手たちもゲームも終始、良い雰囲気の中で進められたように感じられた。

まとめ

昨年は初戦の入りが悪く悔しい思いをしたので、同じミスはしないようにと自分に言い聞かせ、この大会に臨みました。初戦は少し緊張しましたが、自分の判定をひとつひとつ積み重ねていこうという思いで取り組みました。ゲームの終わり方が残念だったとお話をいただきましたが、前々からの課題であり、最後の踏ん張りが足りないことを痛感しました。2日目のゲームにおいても最後の踏ん張りが足りずに相手レフェリーに助けってもらうことがありました。踏ん張らなければならない時間帯を自分で気づき、それに対応出来る体力と感覚を身に付けて行きたいと思いました。体力についてはトレーニングを継続し、感覚についてはゲームを観たり、自分の吹いたゲームの振り返りを大切に精査していきたいと思います。

今回の全国大会では女子準決勝の割り当てをいただき、大変貴重な経験をさせていただきました。この経験を糧に今後も精進してまいりますので、皆さま方には変わらぬご指導・ご助言を賜れますよう、お願い申し上げます。そして最後にこのような機会を与えて下さいました、北海道バスケット協会をはじめ、北海道クラブバスケットボール連盟および関係者の皆さま、そしていつも私を支えてくださっている南空知地区協会に心から感謝申し上げます。